

新型コロナウイルスの漢方治療 で大切なこと



峯 尚志



はじめに

- 2019年12月に中国武漢ではじまった新型コロナウイルス感染症は、瞬く間に世界中に広がり、パンデミックを繰り返し、多くの人々の命を奪った。幸いなことにウイルスは徐々に弱毒化し、2023年2月現在、8回目の感染の波がおさまり、5月より2類から5類への変更が決定している。本論はまだウイルスの毒性が強かった頃に書かれたもので、軽症化した現在とは事情が違っているが、疫病化した感染症の治療を考える上で、参考になることも多いと思われるので3回に分けて論説を加える。ご一読をお願いしたい。



できるだけ早く治療を開始し 重症かさせないこと

1. 新型コロナウイルスの罹患者の8割は軽症
2. 残りの2割が軽症から重症化する。
3. 随証治療により初期のうちに治すことが重要



治療のポイント1

- 解表とともに
芳香化湿し
祛湿散邪すること



新型コロナウイルス感染症は
「湿毒(邪)」を主体とする
病態であって
決して「熱毒挾湿」ではない

北京中医学医院院長 劉清泉



最初は熱毒挾湿証と考えられたが、、、
清熱解毒薬を多用により、
脾胃が冷えて胃気を損ない
湿がさらに氷伏した



それゆえこの疾患は化湿を主とし
「芳香化濁避穢（あい）」「透表散邪」
「昇降脾胃」が治療の中心となる
その結果湿は化し、鬱熱は散じ、毒はなくなり、
症状は次第に消失する



SARSとの比較

• S A R S

広州で発症

亜熱帯

2003年12月に発症

病邪：湿熱

共通点：体が重くだるい

高熱で発症

感染力 発症7日が最大

症状強く封じ込め可能

新型コロナウイルス

武漢で発症

温帯

2019年12月に発症

病邪：寒湿

共通点：体が重くだるい

SARSに比べて発熱は軽い

感染力 発症直前が最大

無症候者あり封じ込め困難



- 新型コロナ
- 寒湿

- S A R S
- 湿熱

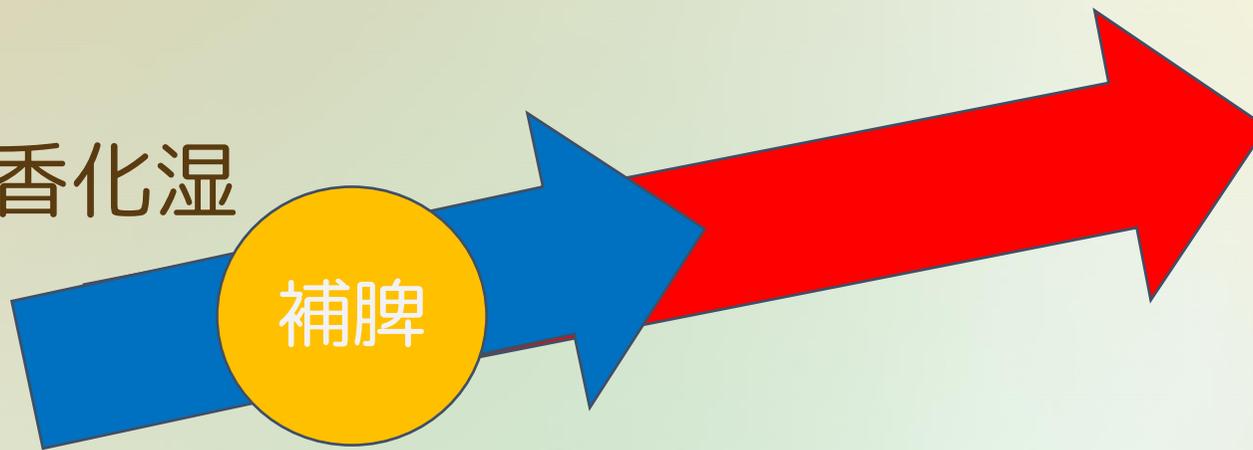
清熱解毒

芳香化湿

補脾

白膩苔

黄膩苔



武漢の地理的特性



武漢の気候風土

- 温暖湿潤気候。夏はとても暑く、夜も気温が30℃以上の日が続き、重慶、南京と並んで三大ボイラーの1つと呼ばれている。市内に河や湖が散在することから湿度が高い上、風があまり吹かないので体感温度ではさらに高くなる。
- 武漢では一般的に11月から冬に入り、最も寒い時期には零下3度にまで下がる。中国北部の空気が乾燥している寒さと違い武漢の「じめじめとして寒い」寒さは血管が縮まるような感じで、身の周りすべてが冷たい湿気を帯びているように感じる。



湿証の特徴

- 脈は滑
- 舌は胖大、寒湿の場合は白膩苔、
- 湿熱になると黄膩苔
- 身体が重くだるい
- 寒湿であっても湿が停滞すると熱化し、
- 微熱から中等度の熱が持続する
- 湿熱になると高熱になる
- 湿ははびこる。
- いったん入るとなかなか出て行かない。



全小林院士の臨床的観察

- 舌苔も初期は少なく黄膩になるのは後期
- 舌苔が厚いのは要注意



寒湿疫方（武漢抗疫1号方）

君：治膜原 檳榔子、草果、厚朴（達原飲）

臣：宣肺散寒 麻黃、石膏、杏仁

健脾 山查子、麥芽、神曲、生薑

除濕 藿香、佩蘭、蒼朮、厚朴、白朮、茯苓

佐 治絡毒通絡 貫衆、徐長卿、地龍

使 瀉肺行腫 亭歷子



加減法

38度以上の発熱

麻黄6、芦根60、石膏15、柴胡15

咳と喘鳴

連翹、百部、亭歴子、仙鶴草、紫菀、橘皮各15、
大黄6

食欲不振、悪心嘔吐

来服子15、陳皮15、半夏15、黄連6、炮姜9

気虚

黄耆30、党参15、丹参15、白朮15、生姜9、
沙参30



中医学治療は重症化を 阻止できるか？



寒湿疫方の効果

721例のうち
中薬ありの430例の
重症化率は0%、
中薬なし291例の
重症化率は6.5%



重症者の予後

武漢中西結合医院

1476名の入院中、662名が重症、484例中薬治療、178名は非中薬、死亡者は中薬使用グループは15例、非使用グループは56名が死亡。死亡率3%と31%



熱の所見に乏しく、
冷えがあり、身体の重だるさ、下
痢などがあれば、OTCの藿香生気
散（勝湿顆粒）を用いる



加減法

- 藿香生氣散（寒濕）
 - 藿香、白朮、茯苓、陳皮、白芷、大棗、甘草、
 - 半夏、厚朴、桔梗、蘇葉、大腹皮、生姜¹
- 藿朴夏苓湯（濕熱）
 - 藿香、薏苡仁、杏仁、淡豆豉、半夏、茯苓、豬苓、
 - 沢瀉、厚朴、白豆蔻
- 三仁湯（濕熱）
 - 薏苡仁、滑石、杏仁、半夏、通草、白豆蔻。竹葉、
 - 厚朴

熱がある場合

麻黄一石膏の組み合わせと
柴胡剤の併用が重要



治療のポイント 2

麻杏甘石湯で肺熱を
とり宣肺利水する



麻杏甘石湯

麻黄石膏の組み合わせは肺熱を去り、気管支を広げ、炎症性浮腫を去り肺のガス交換を助け、呼吸を楽にする



治療のポイント3

少陽の邪熱をとる

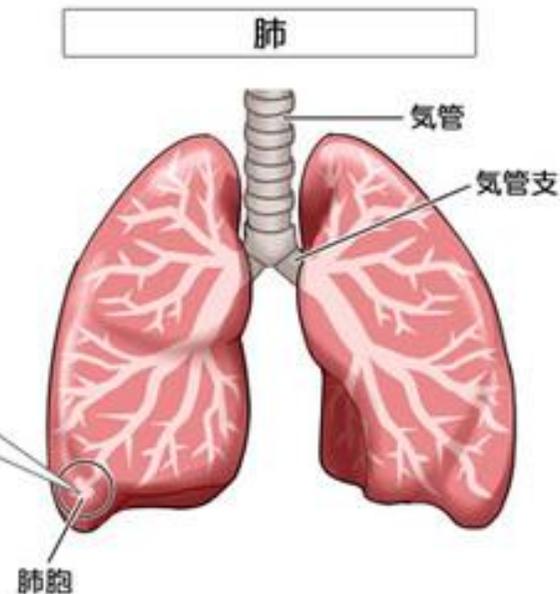
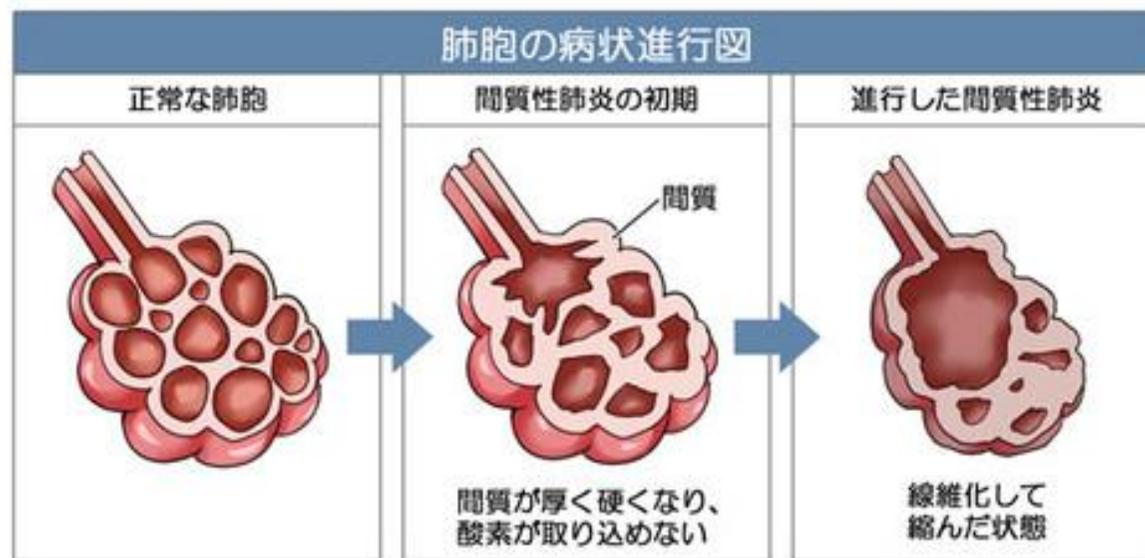
汗吐下によらず和法で治す



柴胡剤を発症初期から 使用する意義



コロナウイルスはACE2受容体を通して上皮組織から間質に進み 間質性肺炎をおこす



そこで増殖したウイルスが複製されて基底細胞層から排出され毛細血管や血管に流入し身体中に運ばれる



全身病としての コロナウイルス感染症

ACE2受容体は、肺、肝臓、心臓、
腎臓、腸、血管などあらゆる臓
器に発現している。
コロナウイルスはこれらの臓器
にはびこる



『傷寒論』 太陽病中篇

「傷寒五六日、往来寒熱、胸脇苦満、黙々として飲食を欲せず、心煩喜嘔、或は胸中煩して嘔せず、或は渴し、或は腹中痛み、或は脇下痞鞭、或は心下悸して、小便不利し、或は渴せず、身に微熱あり、或は咳する者は、小柴胡湯これを主る」

傷寒論の小柴胡湯の条文には
「或いは」の表現が多い
発熱以外に肝、肺、心、脾、腎な
ど多彩な症状が記載されている
全身に症状が現れることを示唆し
ている



免疫系におけるコロナウイルスの 病期を読み取る

たとえばインフルエンザウイルス・
アデノウイルスが太陽病期・陽明病
期にあたるとするなら
氷伏するコロナウイルスは最初から
少陰、少陽病期にあたる



小柴胡湯は 半表半裏の熱を取る

微熱の時期（少陽病期）は
サイトカインストームの
準備状態でもあり、
小柴胡湯の適応である



小柴胡湯は 間質性肺炎をおこす

小柴胡湯は慢性肝炎の肝機能を改善し、
繊維化を防ぐ方剤として100万人に投与
された

1996年、10名の死亡例の報告

10万人に4人が間質性肺炎を併発

(インターフェロンは10万人に182名)



小柴胡湯は燥性を持ち 高齢者の長期投与は不可

柴胡一黄芩の組み合わせは燥性が強く、
陰虚の傾向の強い高齢者に用いるとなお
さら肺が乾燥すると中医学的には考えら
れる



小柴胡湯は 間質性肺炎に有効！

突発性間質性肺炎は予後不良の疾患で生命予後は3から5年。1978年から30年間に治療した43例、観察期間4年から27.4年。生命予後（50%生存）13.9年（発症平均年齢61.3歳）使用した方剤は柴胡剤、補腎剤（八味丸など）
駆於血剤（桂枝茯苓丸など）柴胡剤34例（71.9%）そのうち小柴胡湯18例(41.9%)
またKL-6を追跡できた18例すべての症例で顕著なKL-6の低下を認めた

（北海道漢方医学センター附属北大前クリニック 本間行彦）



小柴胡湯合五苓散は
熱を冷まし湿を治す



柴苓湯の免疫調節作用

柴苓湯は炎症下におけるマクロファージからのIL1, TNF α 、IL6の放出を抑制する

しかもサイトカインに対する作用は病態によって亢進にも抑制にも調節的に作用する



柴胡剤の早期投与は炎症を鎮めるとともに過剰な免疫反応を抑え、サイトカインストームを予防する可能性がある



中医治療の実際 3薬3方

- 連花清瘟膠囊
- 金花清感顆粒
- 血必淨
- 化湿敗毒顆粒
- 清肺拜毒湯
- 宣肺敗毒湯



軽症、中等症、重症例を
通しての標準処方

清肺排毒湯



清肺敗毒湯

麻黄9g、炙甘草6g、杏仁9g、生石膏15~30g
(先煎じ)、

桂枝9g、沢瀉 9 g g、猪苓9g、白朮9g、茯苓15g
柴胡16g、黄芩6g、姜半夏9g、生姜9g、
紫苑9g、款冬花9g、射干9g、細辛6g、
山藥12g、枳実6g、陳皮6g、藿香9g



清肺敗毒湯と古方

麻杏甘石湯

麻黄、杏仁、甘草、石膏

小柴胡湯去人参、大棗

柴胡、黄芩、半夏、甘草、生姜

五苓散

桂枝、沢瀉、猪苓、茯苓、白朮

射干麻黄湯去五味子

半夏、麻黄、生姜、射干、細辛、
紫苑、款冬花、大棗

その他

山藥、陳皮、枳実、藿香



実際の処方選択としては

葛根湯合小柴胡加桔梗石膏合五苓散
麻黄湯合小柴胡加桔梗石膏
五虎湯合柴苓湯
麻杏甘石湯合胃苓湯合小柴胡加桔梗石膏
五虎湯合柴陷湯
など証にしたがって臨機応変に処方する。



清肺敗毒湯

病邪があるところに薬が届くように配剤した苦肉の経験処方。

処方の美しさはない

藿香 → 祛湿解表

麻杏甘石湯 → 宣肺平喘

射干麻黄湯 → 鎮咳散邪

小柴胡湯 → 半表半裏の熱をとる

五苓散 → 湿邪をとる（脾）



清肺拝毒湯からみえること 治療の初期から柴胡剤を使うべし

新型コロナウイルスは病気の初期から半表半裏に進入する。

柴胡剤は半表半裏の熱をとり、ウイルスに対する過剰な免疫反応を抑え、サイトカインストームを予防する



まとめ

- 漢方治療は随証治療によって患者さんの治療反応を助け、重症化を防ぐ目的で使用する
- 重症化を防ぐためには、ウイルスの進入を防ぎ、ウイルスの増殖を防ぎ、過剰な免疫反応を抑えるための西洋医学的治療を積極的に併用し、目の前にいる患者さんにとって現時点でできうる最善の治療を選択する。
- 早期からの治療介入が大切で、開業医のはたす役割は大きい。

